

疾患との関連性 ②飼育経験

初めてどうぶつと生活をすると決めた時、不安なことはありませんでしたか？

初めてではなくても、新たにどうぶつと生活することになった時、不安がない人はいないかもしれません。

飼育経験と疾病の発生の関連性がわかれば、経験がなくとも予測ができるため、不安が取り除けるかもしれません。

どうぶつkokusei調査の犬の飼育経験に関する回答（初めて、2頭目、3頭目、4頭目以上）をもとに、犬の飼育経験と疾患との関連性を調査しました。

【飼育経験との関連が認められた疾患】

犬の飼育経験が少ない回答者で発生が多い傾向の疾患



肝・胆・膵



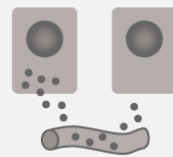
泌尿器



神経



皮膚



内分泌

下に示したグラフのように、犬の飼育経験によって疾患の請求割合に違いが表れ、犬の飼育経験と一部疾患との関連性が認められました。

飼育経験が少ない方が疾病の発生が多いということは、ある程度の予備知識を持つことで、防げるケガや病気があるということです。
飼い主が正しい知識を持って飼育することが、予防や早期発見につながります。
人の手で防げるケガや病気についてはこちらも参照ください。

どうぶつに食べさせてはいけないもの

<http://www.anicom-sompo.co.jp/prevention/lifespan/>

STOP誤飲プロジェクト

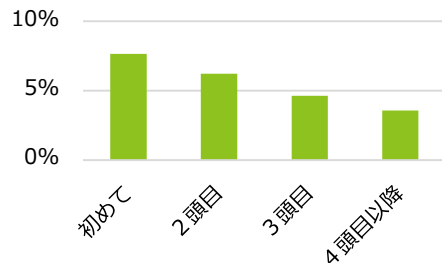
<http://www.anicom-sompo.co.jp/prevention/stopgoin/>

熱中症プロジェクト

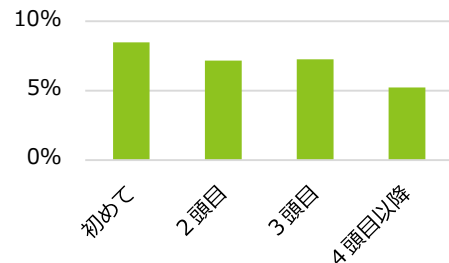
<http://www.anicom-sompo.co.jp/prevention/stopheatstroke/>

【各疾患の請求割合】

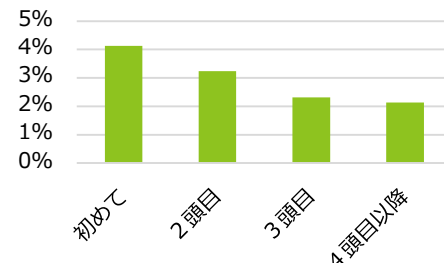
肝・胆・膵疾患



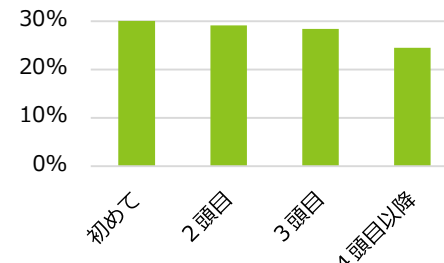
泌尿器疾患



神経疾患



皮膚疾患



内分泌疾患

